この説明書をよく読んでご使用ください

フランス製
3年保証

グリグリ D14

(JP) セルフブレーキ式ビレイ下降器
(EN) Self-braking belay descender device
(FR) Descendeur assureur autofreinant
(DE) Selbstbremsendes Abseil- und Sicherungsgerät
(IT) Discensore-assicuratore autofrenante

CE 0197

225 g

個別テスト済み

警告

この製品を使用する高所作業には危険が伴います。作業中の行為、判断についてはユーザー各自がその責任を負うこととします。

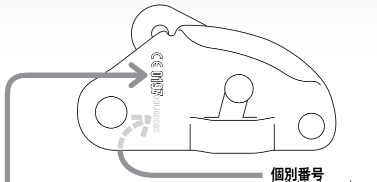
この製品は、高所作業に伴う危険について理解し、承知の上で使用してください。

使用する前に必ず：

- 取扱説明書をよく読み、理解してください
- この製品の機能とその限界について理解してください

また、この製品を正しく使用するための適切な説明や指導を受けることを勧めます。

これらの注意事項を無視または軽視すると、重度の傷害や死につながる場合があります。



個別番号
Individual number
Numéro individuel
IndividuelleNummer
Numero individale

CE 0197

この個人保護用具の製造を監査する公認機関の ID 番号
Body controlling the manufacturing of this PPE
Organisme contrôlant la fabrication de cet EPI
Organismus der die Herstellung dieses PSA kontrolliert
Organismo che controlla la fabbricazione di questo DPI
TÜV Rheinland Product Safety GmbH
Am Grauen Stein
D-51105 KÖLN
N° d'identification: 0197

00 000 A 0000

製造年
Year of manufacture
Année de fabrication
Herstellungsjahr
Anno di fabbricazione

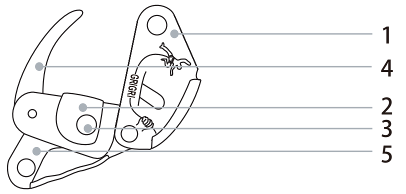
製造日
Production date
Jour de fabrication
Tag der Herstellung
Giorno di fabbricazione

照査

認識番号

CE 適合評価試験公認機関
Notified body intervening for the CE standard examination
Organisme notifié intervenant pour l'examen CE de type
Zertifikationsorganismus für CE Typen Überprüfung
Ente riconosciuto che interviene per l'esame CE del tipo
SGS Yarsley ICS Ltd Cambeley, GU15 3EY, UK. Notified Body N 0120

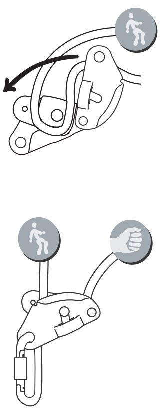
各部の名称



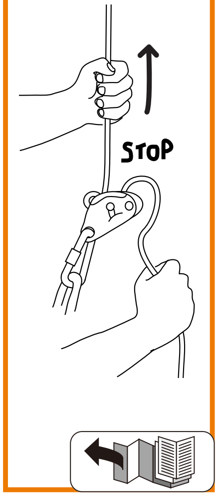
10⩽∅⩽11 mm

ロープ (コア＋シース) ダイナミック (EN 892)
Rope (core + sheath) dynamic (EN 892)
Corde (âme + gaine) dynamique (EN 892)
Seil (Kern + Mantel) dynamisch (EN 892)
Corda (anima + calza) dinamica (EN 892)

1. ロープのセット

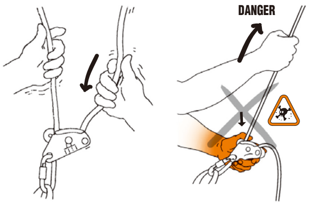


2. 機能の確認

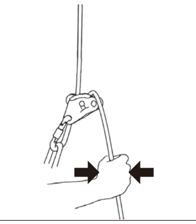


3. リードクライマーのビレイ

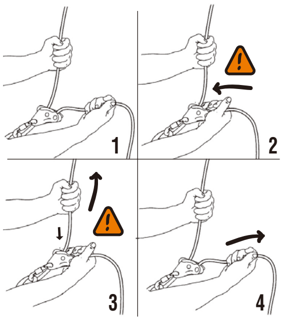
3A. ロープの送り出し



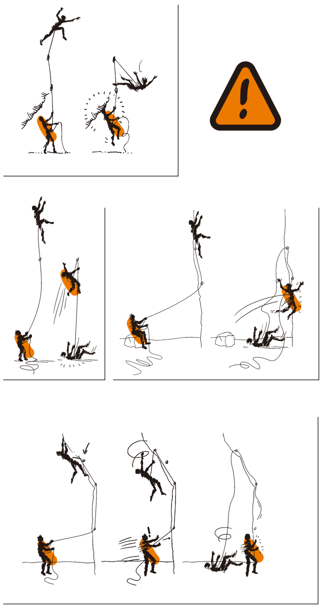
3B. フォールを止めるには

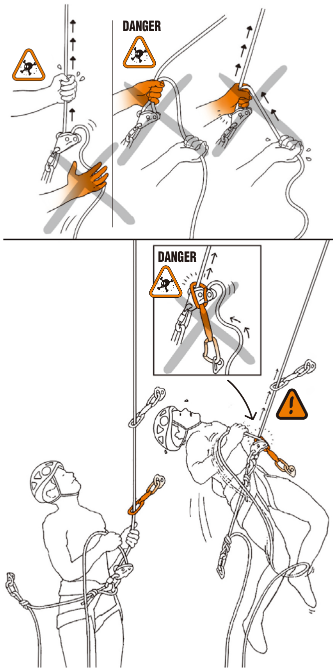


3C. 素早くロープを繰り出すには

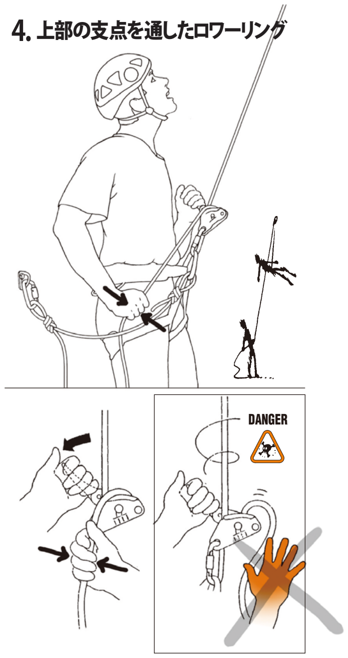


3D. 注意事項

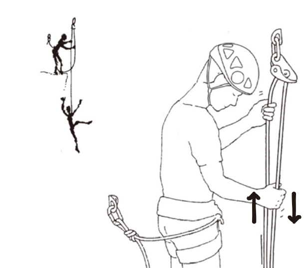




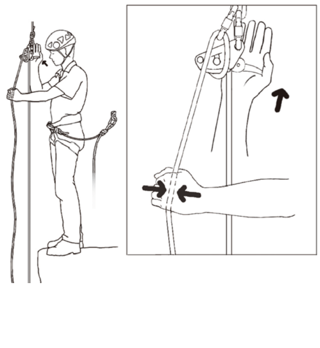
4. 上部の支点を通したロワーリング



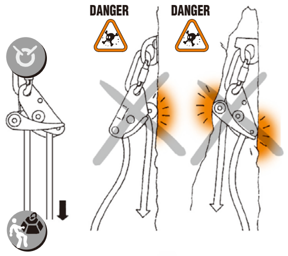
5. セカンドクライマーのビレイ



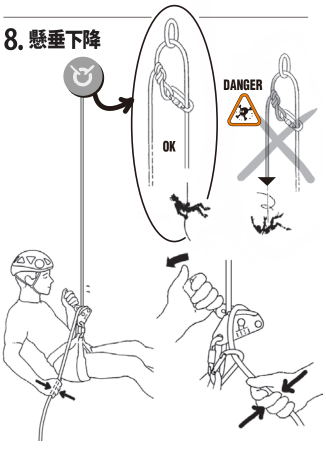
6. 固定されたアンカーポイントからのロワーリング



7. ホーリング



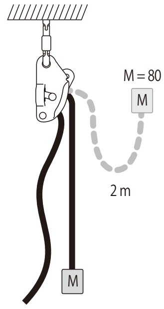
8. 懸垂下降



∅ 動荷重テスト Dynamic request		衝撃荷重 Shock load	スリップ量 Slippage
10 mm	ダイナミック ロープ	4 kN	40 cm
	スタティック ロープ	6 kN	30 cm
10,5 mm	ダイナミック ロープ	5 kN	30 cm
	スタティック ロープ	6,5 kN	25 cm
11 mm	ダイナミック ロープ	5,5 kN	20 cm
	スタティック ロープ	7 kN	20 cm

テスト環境

落下率 1



データは平均値ですので、実際の数値は使用されるロープのタイプにより変動します。
The indicated values are averages and will vary with the type of rope used.

∅ 静荷重テスト Static request	スリップ開始荷重 Beginning of slippage
10 mm	3,8 kN
10,5 mm	4 kN
11 mm	4,5 kN

以上の結果は、ヨーロッパ基準(EN1891,EN892)をクリアしたベアール製のロープを使用したものです。

取扱説明

グリグリ D14
セルフブレーキ式ビレイ下降器

図に示された使用方法の中で、×印やドクロマークが付いていないものだけが認められています。 最新の取扱説明書はウェブサイト（www.alteria.co.jp）で参照できますので、定期的に確認してください。
疑問点や不明な点は (株) アルテリア (TEL04-2969-1717) にご相談ください。

警告

この製品を使用する高所での活動には危険が伴います。ユーザー各自が自身の行為、判断についてその責任を負うこととします。

使用する前に必ず：
- 取扱説明書をよく読み、理解してください .
- この製品を正しく使用するための適切な指導を受けてください
- この製品の機能とその限界について理解してください
- 高所での活動に伴う危険について理解してください

これらの注意事項を無視または軽視すると、重度の障害や死につながる場合があります。

責任

警告：使用前に適切なトレーニングが必要です。
この製品は使用方法を熟知していて責任能力のある人、あるいはそれらの人から目の届く範囲で直接指導を受けられる人のみ使用して下さい。
ユーザーは各自の責任で適切な技術及び確保技術を習得する必要があります。
ペツル製品の誤った方法での使用中及び使用後に生ずるいかなる損害、傷害、死亡に関してもユーザー各自がそのリスクと責任を負うこととします。 各自で責任がとれない場合や、その立場にない場合はこの製品を使用しないで下さい。

各部の名称：

(1) 可動サイドプレート　(2) カム　(3) 軸
(4) ハンドル　(5) 固定サイドプレート
主な素材：アルミニウム合金 (可動サイドプレート), ステンレススチール (カム)

点検のポイント：

毎回、使用前に以下の項目を確認してください：
固定サイドプレートと可動サイドプレート、摩擦部分 (カム、溝)、ロックする部分 (軸)、カムとハンドルのスプリングの状態。最後に実際の操作の確認をしてください（図2を参照）。
もしこの器具の状態に関する疑問があれば、㈱アルテリア（TEL:04-2969-1717）にご相談ください。

使用方法

この製品は、リードするクライマーやセカンドをビレイする器具です。屋内の人工壁や、支点が UIAA の基準を満たし整備されたスポーツルート向けに開発されました。アルパインクライミングやアドベンチャークライミングには使用できません。UIAA 基準に適合した直径 10 ～ 11mm のダイナミックシングルロープを使用して下さい (9.7mm も許容範囲です)。
ただし、10mm より小さい径のロープを使用する場合ロープを握りにくいため、下降時や、ロワーダウン時には特に注意が必要です。
スタティックロープまたはセミスタティックロープの使用は、懸垂下降とトップロープのみに限定してください。ユーザーは適切なトレーニングを受け、常に注意を払ってこの製品を使用する必要があります。

図 1. ロープのセット

ロープは器具に刻まれている図の通りに挿入します。次にグリグリを閉じ、ロッキングカラビナで固定します。

図 2. 機能の確認

毎回、使用前に、ロープが正しく挿入されていること、器具が正常に機能することを確認してください。
クライマー側のロープは、急激な引き寄せや引っ張りによりジャミングします。ロープにテンションがかかるとカムが軸上で回転し、ロープを挟みます。ロープのテンションが解除されるとカムは元の位置に戻ります。
泥や砂が器具に入らないように気をつけ、同時にロープが直接接触する面に油等がつかないように注意してください。

図 3. リードクライマーのビレイ

クライマーをビレイする前に、必ず自分自身のセルフビレイをとってください。ビレイヤーはロッキングカラビナを使用してハーネスに直に器具を装着してください。ビレイヤーがカウンターウエイトの役割をし、リーダーが墜落した時に衝撃を吸収するのを助けます。

3A. ロープの送り出し

ビレイヤーは片方の手で末端側のロープを握り、もう一方の手でクライマー側のロープを握ります。
手際よくロープを送り出すには、末端側のロープを握っている手で器具の中にロープを押し込み、クライマー側のロープを握っている手でロープを引き出します。

3B. フォールを止めるには

効果的にフォール（墜落）を止めるには、末端側のロープを下方向へ強く引いてください。

3C. 素早くロープを繰り出すには

リードクライマーがロープをクリップする時、素早くロープを送り出すのが困難な時があります。この場合は、末端側のロープを握っている手を器具に移動し、カムを手で固定し、もう一方の手でロープを素早く引き出します。カムを固定している手は素早く末端側のロープに戻して下さい。
注意：安全のため、この方法は使用を制限し、素早く行う必要があります。パートナーの墜落時にビレイヤーが『グリグリ』を強く握りしめてしまう可能性があり、その結果、末端側のロープのコントロールを失う危険性があります。

3D. 注意事項

- ビレイヤーの安全確保：ビレイヤー自身がセルフビレイを取り、ビレイヤー自身の危険と、パートナーを落下させてしまう危険を排除する必要あります。
- 軽い墜落、軽量なクライマー：長いランナウトでの複数のフリクションポイントは、器具に伝わる衝撃荷重を減らします。また、体重の軽いクライマーや、滑るような墜落での荷重はロープに十分なテンションを与えず、器具のセルフブレーキ機能が働かない、もしくは遅れる可能性があります。末端側のロープは常にしっかりと握るようにしてください。

注意：それぞれの手は一方向側のロープのみを握ってください。エイト環やミュンターヒッチ等でしばしばなされるように、片手で両方のロープを握ってしまうと、器具の正しい機能が妨げられ、ロープにかかるブレーキが遅れたり妨げられたりする恐れがあります。
注意: 器具は常に自由に動く状態にしておいて下さい。操作が障害物（例えば最初のクイックドロー等）によって妨げられないようにして下さい。

図 4. 上部の支点を通したロワーリング

パートナーを簡単にロワーダウンさせるには、リードクライマーをビレイする時と同様、『グリグリ』をハーネスに取り付けて使用します。末端側のロープを強く握り、それからロープのブレーキを解除する為にハンドルを引きます。ブレーキの強さは、末端側のロープを握る強さにより調節します。
ハンドルはブレーキの補助はしますが、末端側のロープを握る手によるブレーキの代わりにはなりません。

図 5. セカンドクライマーのビレイ

このケースでは墜落の距離は限られています。器具を支点もしくはハーネスに取り付けます。
注意：器具が壁面にあたって操作が妨げられないようにしてください。器具がクラックの間に挟まったり、カムが岩やその他の障害物に接触したりしないようにしてください。このような場合には、器具が適切に機能しません。

図 6. 固定されたアンカーポイントからのロワーリング

摩擦によるブレーキを高めるため、末端側のロープを必ずブレーキ用のカラビナに通してください。末端側のロープを握り、ハンドルを上に持ち上げてください。
ブレーキの強さは、末端側のロープを握る強さにより調節します。

図 7. ホーリング

この器具はプーリーとアッセンダーの組み合わせの代わりとして使用できますが、摩擦は大きくなります。

図 8. 懸垂下降

この器具では、最長 50 mの懸垂下降を安全に行うことができます。それ以上の長さの下降はお勧めできません（器具が過熱する恐れがあります）。
ロープのセット方法：器具に刻まれている図に従い、クライマー側に固定した側のロープを挿入してください。
- 『グリグリ』にはセルフブレーキ機能がありますが、安全の為、**ハンドルを握っている時は末端側のロープを絶対に放さないで下さい。**下降する際は、まず末端側のロープをしっかりと握って下さい。そしてロープの固定を解除する為にハンドルをゆっくりと引いて下さい。
  ブレーキの強さや下降のスピードは、末端側のロープを握る強さにより調節します。
  下降を止めるには単純にハンドルを放してください。
- ブレーキ力を高めるには、末端側のロープをブレーキ用のカラビナに通して下さい。
- 1 本のロープで下降し、その後ロープを回収する方法は、図を参照して下さい。

注意：図のように正しい方のロープで下降してください。誤って正しくない方のロープで下降すると死の危険があります。下降する前に、懸垂する側のロープの末端に結び目を作ることを忘れないで下さい。

一般注意事項

耐用年数

注意：以下にあげるような極めて異例な状況においては、 1回の使用で損傷が生じ、その後使用不可能になる場合があります：化学薬品との接触、鋭利な角との接触、極端な高 / 低温下での使用や保管、大きな墜落や過荷重等。
ペツル製品の耐用年数は以下の通りです：プラスチック製品、繊維製品は最長で製造日から 10 年。 金属製品には特に設けていません。
ただし、下に記された " **廃棄基準** " の内一つ以上に該当する場合や、技術や基準の進歩を反映した新しい器具との併用に適さないと判断される場合は直ちに廃棄してください。
実際の耐用年数は様々な要因によって決まります。例：製品を使用する環境、使用の頻度、状況、ユーザーの能力、保存やメンテナンスの状況等

製品に損傷や劣化がないか定期的に点検してください。

安全のため、使用前、使用中の点検に加え、専門家による綿密な点検を少なくとも 12 ヶ月ごとに行う必要があります。 綿密な点検は少なくとも 12 ヶ月ごとに行う必要がありますが、必要な頻度は、使用の頻度と程度、目的により異なります。 また、各 PPE ユーザーが用具の使用履歴を把握できるようにするため、各ユーザーが専用の用具を持ち、未使用の状態から管理することをお勧めします。
用具をよりよく管理するため、製品ごとに点検記録をとることをお勧めします。点検記録に含める内容：用具の種類、モデル、製造者または販売元の名前と連絡先、製造番号、識別番号、製造年、購入日、初めて使用した時の日付、ユーザー名、その他の関連情報 (例：メンテナンス、使用頻度、定期点検の履歴、点検日、コメント、点検者の名前と署名、次回点検予定日) 詳しい点検記録の見本は www.petzl.com/ppe を参照ください。

廃棄基準

以下のいずれかに該当する製品は以後使用しないでください：
- 使用前、使用中の点検、または定期点検において使用不可と判断された
- 大きな墜落を止めた場合や、非常に大きな荷重がかかった
- 完全な使用履歴が分からない
- プラスチック製品または繊維製品で、製造日から 10 年以上経過した
- 製品の状態に疑問がある

使用しなくなった製品は、以後使用されることを避けるため廃棄してください。

新しい技術および器具の発達

製品が、システムの中での使用に適さないと判断され、実際の耐用期間が過ぎる前に廃棄される場合の理由は様々です。 例：関連する基準、規格、法律の変更、新しい技術の発達、他の器具との併用に適しない等

改造と修理

ペツルによって認められた場合を除き、製品の改造および修理を禁じます。 製品の機能を損ねる危険性があります。

持ち運びと保管

紫外線、湿気、化学薬品等から保護するため、ハーネスは付属の袋もしくはその他の箱等に収納して保管してください。

保証

この製品には、原材料及び製造過程における欠陥に対し３年の保証期間が設けられています。 ただし以下の場合は保証の対象外とします：通常の使用による磨耗や傷、酸化、改造や改変、不適切な保管方法、メンテナンスの不足、事故または過失による損傷、不適切または誤った使用方法による故障。
ペツル及びペツル総輸入販売元である株式会社アルテリアは、製品の使用から生じた直接的、間接的、偶発的結果またはその他のいかなる損害に対し、一切の責任を負いかねます。

ペツル 製品チェックフォーム：

製品名：

ロットナンバー：

製造年：

購入日：

初回使用日：

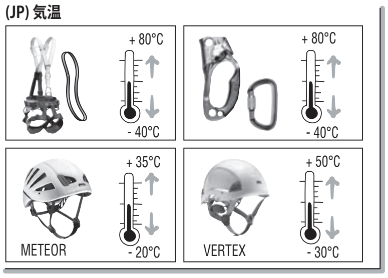
ユーザー名：

欠陥など注意事項 / メモ：

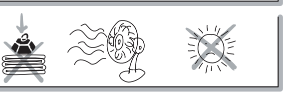
3ヶ月毎に点検してください

日付	OK	点検内容

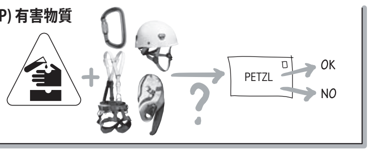
(JP) 気温



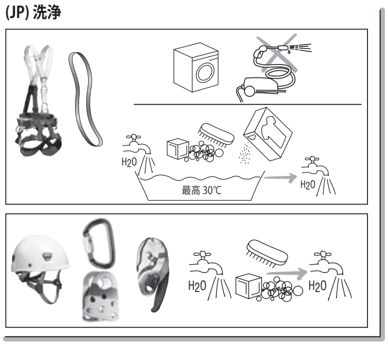
(JP) 保管方法



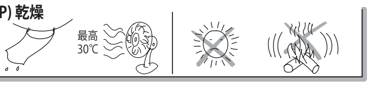
(JP) 有害物質



(JP) 洗浄



(JP) 乾燥



(JP) メンテナンス